

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375000409		
法人名	有限会社 中部介護事業所		
事業所名	中部介護アウト・オン・ア・リム		
所在地	愛知県東郷町和合字牛廻間1-104		
自己評価作成日	平成28年1月10日	評価結果市町村受理日	平成28年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あなたの笑顔 わたしの笑顔 大切に」という理念に基づいて、介護現場が入居者の日常ケアに努めていること

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=2375000409-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と職員が笑顔であることを目指した内容の理念を掲げており、職員が利用者寄り添った支援を行うように取り組んでいる。ホームは、関係機関との協議を続けた結果、元々の9名の定員から2名を減らした1ユニット7名の体制に移行している。利用者が2階のフロアのみで生活することになったことで、職員による利用者の見守りが容易になったことや利用者一人ひとりの思いや意向等の把握にもつながっている。協力医との関係についても柔軟な協力体制を築いており、訪問看護と合わせた医療面での連携を深めながら、利用者の看取りに向けた支援にも取り組んでいる。また、ホーム建物1階にデイサービスを併設していることで、デイサービスと連携した食事作りを行ったり、デイサービスで実施される行事の際には、ホームからも利用者が参加しており、交流につなげている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成28年1月14日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員はホームの理念を共有しながら介護ケアに努めている中で、利用者が毎日の生活を笑顔で楽しく送って頂けるように日頃から笑顔で接することを心がけている。	理念は、ホーム開設時につくられており、職員が「笑顔」を大切にしたい支援を行うことを目指した内容の理念を掲げ、ホーム内への掲示も行われている。職員間で日常的に笑顔で利用者へ接するように意識するよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	医療依存の高い入居者が増えている現状から介護職員は日常業務が全介助者のケアに集中しているが、外出支援の際には近隣や公共施設での地域交流の機会に努めている。	地域の方との交流については、町内の清掃活動や祭事への参加等、ホームで出来る範囲での交流が行われている。また、デイサービスでボランティアの方が訪問した行事の際には、ホーム利用者も参加する機会も得られている。	地域の方にホームを知ってもらい、地域の方の受け入れにつながるよう、デイサービスのスペースを活かした交流の機会が増えるような取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩しながらの道端のゴミ拾いや、受診した際に地域の方と対話するなど、認知症の方との接点を生み出して職員からも「介護はどんな仕事なのか」を話している。実際に入居者の受診の際には地域の方から介護相談を受けた例もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではご出席者各位にサービス内容や困難事例の相談などで意見を伺う以外にも、認知症高齢者の介護に関わる内容をテーマにして、御家族や関係者各位に介護ケアの理解を求められるよう説明している。	会議の際には、様々なテーマを持って話し合いを行うことで、出席者にホームの現状や取り組みを知ってもらうよう取り組んでいる。また、家族には交代で出席してもらうよう働きかけが行われている。	出席する機会が少なくなっている地域の方の出席等、会議への出席が増えるように、ホームからの継続的な働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの現状や困難事例等について報告・相談を行い、協力関係がスムーズに成り立つよう努めている。また、当ホームの介護ケア方針についても代表者より関係者へ報告している。	町の担当部署とは、運営推進会議を通じた情報交換の他にも、介護事業所が集まる連絡会には可能な範囲で出席すよう取り組んでいる。また、毎月の介護相談員の訪問の機会があり、情報交換等につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむをえずベッド柵を使用している入居者の方に対しては御家族の理解と同意を頂いた上で実施しており、日常的に現場職員が経過観察をしていく上で軽減に努めている。	身体拘束を行わない方針であるが、重度の方が生活している現状もあり、身体拘束が必要な場合は家族との話し合いの機会をつくっている。また、日常的な職員に対応に関する注意喚起等の機会もつくられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	個人の意思を尊重したパーソン・センタード・ケアを心掛けて、管理者よりも現場職員へは認知症高齢者のADLの理解と接し方に配慮するよう注意を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現場職員が権利擁護に関連する研修へ参加したり、定期的に関く職場の勉強会でもテーマに挙げて理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にまつわる際は共同生活で起こる可能性について十分な説明を心がけ、利用者や家族に理解して頂けるように徹底している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が定期に入居者の家族へ近況を報告して家族側の意向意思を確認している。家族側から意見や助力を頂いているのみならず、何か要望があった場合も誠意対応に努めている。	家族との随時の面談の機会をつくりながら、家族からの要望等の把握につなげている。家族とは、ホーム管理者の他にも法人代表者も対応する体制がつけられている。また、毎月のホーム便りの発行が行われている。	ホームの行事等について、家族にも案内を行い、交流の機会をつくっているが、参加される方が少ない現状がある。ホームからの継続した取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場職員の入れ替わりがあったため、改めて当ホームの運営方針の理解を示した。また、代表や管理者から職員に意見・相談するのみならず、職員側からも意見や提案ができる職場環境を生み出している。	ホームは1ユニット7名に合わせた職員体制であるため、日常的な申し送りの時間を通じたミーティングを行いながら、職員間の意見交換につなげている。職員からの意見等は、管理者を通じて代表者に報告されており、運営への反映につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	私の笑顔、あなたの笑顔、大切にという理念を職員に浸透させ、個々の利用者への対応目的意識を浸透させ、どうすれば笑顔や元気につながるかを考え、目標を与え評価をし待遇評価をすることになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の受講後、または文献等で最新の情報を得て、特に認知症のケアについて勉強会や会議等を開催し常に考える介護を目指し、向上心を持たせることを心掛けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町などが行っている交流勉強会等の案内を配布し積極的に参加でき、交流も図りそれぞれの問題や改善を共有しより良いケアに努めている。年数回複数の事業所同志の勉強会を行って以来様々な相談をしあってケアの向上に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の要望や悩みなどがあった場合は、その気持ちを理解して共感しながらケアに努めている。状況により、家族側の協力を得られる体制も構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族への定期的な近況報告(主に本人の要望や心身の状態変化)や、面会時には介護計画書に記載したサービス内容を説明して意見・相談しけいけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設内で開催させる行事へ参加して楽しんで頂いている。家族による面会や外出希望があった場合も、近況報告のみならず家族側へホームに対する意見や要望がないかを確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活上で各入居者の「出来ること」を職員と一緒に見つけて、お手伝いを実践して頂くことで個人の役割を持てるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には気軽に面会や外出に来て頂けるように呼びかけており、入居者と家族が一緒に過ごせる時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの場所(喫茶店、図書館、馴染みの床屋など)を利用できるように、気分転換も兼ねて外出の機会を通じて支援に努めている。	利用者の中には、ホームへの入居前からの知人、友人との交流を継続している方や馴染みの理美容を継続しての方がおり、関係継続につながる取り組みが行われている。また、家族との外出を通じた、家族と過ごす機会もつくりられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	医療依存・認知症レベル・性別の違いから接点の薄い入居者どうしもいっしょにやるが、出来得る限りで共同の場所と時間で過ごす環境支援に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族へは退所された後でも、気軽に施設に来れるように声掛け、再び相談や意見等があればお越し頂けるように伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の気持ちや要望に対して、現場の職員はしっかりと理解と対応に臨んでいる。また、状況によっては家族側への相談・協力も頂いている。	ホームは、1ユニット7名の体制であるため、職員全員で利用者の意向等の把握に取り組んでおり、日常的な申し送りを通じた話し合いが行われている。また、定期的なアセスメントの更新が行われており、利用者に関する情報の把握につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームでの生活が本人にとって馴染みやすく、より落ち着いた環境で過ごして頂けるように心がけている。また、本人や家族からの意見や要望も定期的に確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日所生活上での介護ケアや自立支援とともに、医療面の状態変化にも現場看護師や医療関係者と連携を取りながら情報共有と対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者を中心に現場の介護職員が、入居者個々のケア方針について意見交換を実施している。これを参考に介護計画を作成して、家族にも提案・説明と了承を心がけている。	介護計画は基本6か月での見直しが行われており、家族との面談が行われている。毎月のアセスメントの更新を通じたモニタリングが実施されており、利用者の状態等の変化に合わせた見直しにもつなげている。	職員が介護計画の内容を共有しながら日常の支援につながるように、定期的なカンファレンスの実施や利用者毎の報告等、職員間での取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の様子や体調を日常的に見守りながら、何か変化があれば引継ぎの際には申し送りを徹底して情報共有している。体調変化が生じた場合も主治医などの医療関係者と相談をして、早期に医療連携がとれるように対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が日常生活で気になる事や要望に関しては、常に耳を傾けて対応していく姿勢に取り組んでいる。また、家族が面会に来られた際には本人の様子をお伝えして、お互いに意見・相談できる体制を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の心身の状態に限るが、ホーム内の行事や外出などで地域に密着できる機会を増やせるように支援に臨んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による月2回の往診のみならず、休診時間帯でも各利用者の体調に応じて主治医と相談して指示を伺ったり受診をするように支援している。	協力医とは、定期的な訪問診療が行われており、ホームからの受診支援にも対応している。また、ホームに看護師の勤務が行われている他にも訪問看護も行われており、利用者の健康チェックや医療面での情報交換が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の状態変化に伴って、現場看護師や訪問看護ステーションへ早期に報告をして指示を仰げる体制を構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院から退院するまでの期間には病院へと赴き、定期的に担当医師より現状の確認を取り合っている。また、その内容はホームの医療関係者へも報告を徹底している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期を迎えられた入居者に対しては、御家族や医療関係者と話し合いをして今後の支援について相談・提案を行っている。その中で御家族側へは本人の状態変化に応じて意向確認をしている。	利用者の看取りに向けた支援にも前向きに取り組んでおり、協力医の支援も受けながら、ホームでの看取りの経験もある。家族とも利用者の状態に合わせた話し合いが行われており、意向に合わせた支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを常に掲示しており、現場の介護職員には緊急時にも素早く対応できるように指導を心がけている。また、救急隊への状況説明が円滑にできるように入居者の個人票も定期更新している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した避難訓練や消火訓練を毎年実施して、緊急時でも入居者や利用者が迅速かつ安全に避難できるように訓練している。災害時の地域との相互救助や非常時の備蓄確保にも努めている。	ホームで実施している避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や併設のデイサービスとの合同訓練も行われている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保も行われているが、地域の方との協力関係については、継続したテーマでもある。	ホームには、重度の方が生活している現状があることや、利用者の避難経路が限られている構造でもあるため、近隣の方との継続した協力関係の働きかけに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の視点や立場になって個人の尊重を心がけることができるケアに努められるように、日常的な介護支援でも介助の声かけやコミュニケーションなどの言葉遣いにも気を配っている。	職員には、ホームの基本理念でもある笑顔を大切にされた支援が行われるように、申し送りの時間を通じた、管理者からの言葉遣い等に関する注意喚起の機会もつくられている。少人数の職員体制でもあるため、職員への配慮にも取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人から相談や要望があった場合には積極的にコミュニケーションをとり、相手の心理に寄り添えるケアを心がけている。自己決定が難しい方には介護職員がきっかけ作りをして、本人様の興味と意欲を高めるような支援を実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活上で入居者が自己にて意思決定をして、自分の時間を大切に過ごせるように支援している。その際に要望や悩みなどの相談があった場合も、職員はしっかりと傾聴して対応を思案している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や爪切り、季節に合わせた衣服の用意を心がけている。心身の状態や入居者本人からの希望があれば、家族と相談をして必要な物を持参して頂けるようお願いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間帯に音楽や歌番組のDVDを流しており、落ち着いて食事を楽しめる環境を作っている。また、食事前のテーブル拭きやおしぼりの準備など、出来る範囲で入居者の方には協力して頂いている。	食事に関しては、併設のデイサービスと連携した調理が行われており、重度の方に合わせたミキサー食やトロミ食等の提供も行われている。また、季節の行事等に合わせた行事食の取り組みや喫茶等の取り組みも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1回栄養管理士より食事内容について指導を受けており、栄養管理を徹底している。また毎月ごとに体重測定を実施して身体の変化を確認したり、日頃からのまめな水分補給にも気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、口内の衛生および気管支肺炎防止にも心がけている。また、歯の状況によっては御家族の協力を得て受診して頂いたり、受診の困難な入居者には訪問歯科医の往診で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中のトイレ誘導や排泄介助のみならず、夜間等の排泄のパターンも把握して日常ケアに努めている。また尿便の1日トータル量を把握するために、排泄チェック表も新規にして記録の徹底と変化の対応にも努めている。	利用者全員の排泄状態の記録を残しており、大きく見やすいチェック表を用意することで、職員間での情報の共有につなげている。また、協力医や看護師とも連携した医療面での支援も行われており、利用者の排泄状態の改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者の排泄チェック表を毎日記録に収め、排泄状況に伴う体調の変化に配慮している。また、排泄コントロールの困難な方は主治医や現場看護師と相談をして、排尿・排便の通りを良くする服薬なども採り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタルチェックを行い、心身共に異常はないかを把握して安全・穏やかに入浴して頂いている。入浴者の曜日や時間帯は業務上で取り決めてあるが、本人の心身の状況に合わせて臨機応変に変更対応している。	入浴に関しては、利用者の身体状態に合わせた支援が行われている。浴室内にリフトが設置されていることで、車いすの方も複数の職員による介助での入浴が実施されている。また、季節に合わせた柚子湯等の楽しみも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎週決まった曜日に布団を干してシーツ交換を実施し、衛生状況に配慮している。季節に応じて日常的に温度差が無く穏やかに過ごして頂けるように着衣や室温調節にも配慮に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者が入居者個々に作成している個人票に服薬の内容を明記して薬の効果を確認できるよう徹底している。また、錠剤での内服が困難な入居者は主治医と調剤薬局の協力を得て粉末状での内服支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月々の行事(工作物やボランティアによる演奏会など)以外でも、本人の出来ることを活かして日常的に洗濯物を畳む手伝いなどをして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現場の職員やボランティアの方と一緒に近隣の散歩や公共施設へ行く機会を増やしている。家族へも、一緒に外出して同じ時間を楽しく過ごして頂けるようお願いしている。	ホームでは、日中の時間に状況等をみながら散歩等を行うように取り組んでおり、利用者の日常的な外出の機会をつくっている。また、季節に合わせた花見や公園等の外出行事の取り組みも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の入居者が要望によって金銭を所持しており、外出時に自由に使えるようにしている。但し、紛失のケースがあったため金銭は家族側の了解を得て事務室で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、正月には入居者が年賀状を家族宛てに書いて頂けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁掛けや手作りの造作物など、季節ごとに合わせたものをホールへ飾って居心地の良い環境に配慮している。また外気の天気や気温に合わせて、照明や室温の調節も常に心掛けている。	リビングは7名の利用者がゆったりと過ごすことができるスペースが確保され、建物の2階に開設されてあることで、静かな雰囲気となっている。また、利用者の作品の掲示や利用者の生活が分かるように1年分のホーム便りの掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者どうしが隣り合って座れる大きなソファや、テーブル側の席も男女で区分けして穏やかに過ごせる環境に配慮している。車椅子介助者が増えていることから、今後はホームの調度類の配置が重要となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族への相談や協力を得られて、入居者本人が馴染みのある物や自宅で過ごされていた頃よりの思い出の品を居室に置いている。また、職員はそういった品々を用いてコミュニケーションのきっかけとして工夫している。	利用者により、馴染みの家具類の持ち込みが行われている居室やシンプルな雰囲気の居室があり、利用者、家族の意向等に配慮している。また、親族の遺影を飾っている方や趣味の物を持ち込んでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が声かけ誘導や移動介助に集中するのではなく、入居者の方が場所を自分で認識できるように表札を壁に取り付けている。通路には遮蔽物を配置しないように努めており、本人のペースで行動が可能な環境を構築している。		